

国立病院機構熊本医療センター

No.196



# くまびょう NEWS

NHO KUMAMOTO MEDICAL CENTER KUMABYO NEWS

発行所  
国立病院機構熊本医療センター  
〒860-0008  
熊本市中央区二の丸1番5号  
TEL (096) 353-6501(代)  
FAX (096) 325-2519

## 平成25年度第1回(通算第35回) 開放型病院連絡会 が開催されました



福島先生のご挨拶の様子

平成25年度第1回(通算35回)開放型病院連絡会が、9月10日(火曜)午後7時より、ホテル日航熊本(5階阿蘇の間)で開催されました。

開会にあたり、先ず、河野文夫院長より開放型病院としての経緯及び現状報告をされ、日頃の病病・病診連携へのご支援に対する感謝を申し上げます。

続いて、開放型病院協議会委員長で、熊本市医師会会長であられる福島敬祐先生がご挨拶され、当院の地域の中核病院として、さらなる発展への期待を述べられました。

続いて、熊本市医師会理事の田中英一先生と当院高橋毅副院長の司会で連絡会が始まり、豊永哲至糖尿病・内分泌内科部長より「新しい人工臓腑について」、石井将太郎消化器内科医師からは「超音波内視鏡の新たな展開」について症例提示が行われました。この後、清川哲志統括診療部長(地域医療連携室長)より地域医療連携室からのお知らせを行い、最後に熊本市歯科医師会会長の宮本格尚先生からご挨拶を頂き、連絡会を終了いたしました。

この後、意見交換会が行われ、熊本市医師会会長の福島敬祐先生のご挨拶があり、熊本医師会副会長の加来裕先生による乾杯のご発声で、各診療科、各部門毎にテーブルを囲み意見交換会が始まりました。意見交換会では、当院の各診療科部長(医長)の紹介も行われ、最後に片渕茂副院長の閉会の挨拶で無事終了となりました。

登録医の先生及び医療連携担当の方々総勢231名と当院の職員168名の参加で会場は満員となり、医療連携で大切な顔の見える連携の場となりました。

(管理課長 中村 敦)



満員となった会場での意見交換会の様子

### 基本理念

最新の知識・医療技術と礼節をもって、  
良質で安全な医療を目指します。

### 運営方針

1. 良質で安全な医療の提供
2. 政策医療の推進
3. 医療連携と救急医療の推進
4. 教育・研修・臨床研究の推進
5. 国際医療協力の推進
6. 健全経営



「当院と中核病院との病・病連携」



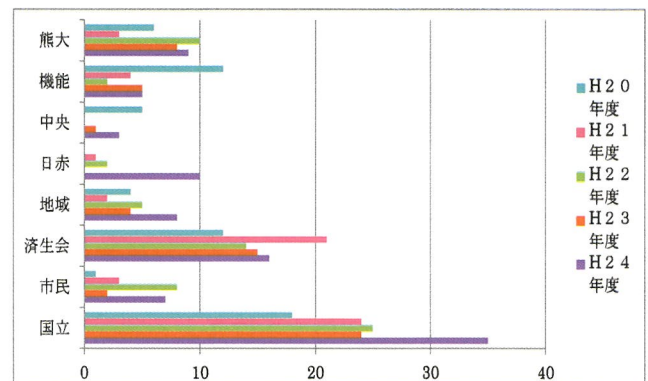
表参道吉田病院  
院長 吉田 仁爾

秋になると子供の頃から馴染んだ藤崎宮の秋の祭り通称「ボンタ祭り」が頭に浮かびます。(最近はこの呼称は禁じられています) 当院はその藤崎宮参道の中央に位置し熊本市内中心部なのに閑静というこのうえない療養環境に恵まれています。私の祖父が設位してやがて115年を迎えようとする老舗の病院です。内科主体の病院で外科や救急は行っていませんので、当院の守備範囲以外では市内の中核病院に大変お世話になっており、その協力なしでは当病院の運営はできないものと思っております。

当病院からアクセスの一番いい病院というと国立熊本医療センターです。この地区の患者さんも沢山の方が熊本医療センターへの転院を希望されます。逆に熊本医療センターからの逆紹介の患者様も当院周辺にお住まいの人が大半となっています。

当院は内科の全科を網羅はしていますが特に呼吸器系疾患の患者さんが多く来院されます。人工呼吸器管理も行っております。COPDにて常時酸素吸入が必要な患者さんが数多く入院されています。又、睡眠時無呼吸に対するCPAP管理も月に200人以上行っています。

しかし、脳梗塞の急性発症や、心筋梗塞、心不全の急性増悪、腹部外科を要する疾患、あるいは当院併設の施設内で転倒し骨折を受傷された方は沢山の人が熊本医療センターにお世話になっています。断らない救急は私の病院にとっては誠に頼もしい病院です。



**FAX紹介での時間予約制をご活用下さい**

日頃、多くの患者様をご紹介頂きまして誠に有難うございます。紹介患者様の待ち時間を短くするためにFAX紹介で時間予約ができます。月から金の日勤帯(8:15~17:15)です。

当院のFAX紹介用紙に受診希望日を入れてお送り下さい。担当者がカルテを作成し希望日に時間予約を取りましてFAXにて返信致します。是非、FAX紹介での受診日の指定と時間予約制をご活用して頂き、患者様の待ち時間短縮にご協力下さい。よろしくお願い申し上げます。

尚、FAXの紹介用紙は、電話(代表096-353-6501 内線2360)またはFAX(医事096-323-7601)でご請求頂きますと、直ちにFAXにてお送り致します。また、後ほど改めてFAX紹介用紙を郵送致します。ホームページからもダウンロード出来ます。

国立病院機構熊本医療センターホームページアドレス <http://www.nho-kumamoto.jp/index.html>

(経営企画室長 織田 政継)

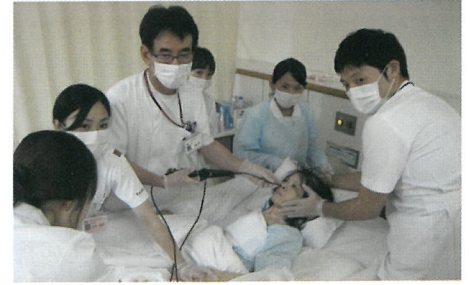
# チーム医療紹介

## 摂食嚥下チーム



摂食嚥下チームスタッフ

国立病院機構熊本医療センターの摂食嚥下チームは平成23年度2月に多職種にて発足し、3月から週1回のラウンド（月曜日16時45分～）を行っています。目的は「口腔ケアを充実させ、安全に経口摂取を行うこと」として、口腔内の評価と、摂食嚥下についての評価を行っています。平成23年11月には嚥下内視鏡を導入して、ベッドサイドでの精密検査を行うことも可能になり、コンサルの件数も増加してきました。



メンバーは医師、歯科医師、看護師（救命、7北）、歯科衛生士、言語聴覚士、理学療法士、管理栄養士で行っており、いつでも見学、参加は歓迎しています。

最近は、各病棟からの要望に応じて、口腔ケア・摂食嚥下のセミナーや実際の指導を行っています。

（歯科口腔外科部長 中島 健）

## 2013 診療科紹介 (64)

### 産婦人科



**部長**  
**三森 寛幸** (みもり ひろゆき)  
産婦人科悪性腫瘍  
日本婦人科腫瘍学会婦人科腫瘍専門医  
日本臨床細胞学会専門医  
日本産婦人科学会専門医  
日本がん治療認定医機構認定医  
母体保護法指定医



**医長**  
**西村 弘** (にしむら ひろし)  
産婦人科悪性腫瘍、産婦人科一般  
生殖内分泌  
日本産婦人科学会専門医  
日本がん治療認定医機構認定医  
母体保護法指定医

### 診療内容と特色

当科は、1961年より、厚生労働省の掲げる政策医療の1つとしての婦人科悪性腫瘍の診断治療を重点目標に取り組んでおり、科学的根拠に基づいた標準的治療を実践しています。婦人科悪性腫瘍患者治療数は九州でも、トップクラスです。婦人科入院の7~8割は悪性腫瘍症例で、個々の症例に対しては、患者様及びご家族の意向を尊重した治療の選択を第一に心がけています。手術症例では正確な進行期分類を行い、個々の症例に応じた必要で十分な術式を術前に検討し、最終的には術中所見を考慮し、術式を決定しています。また進行期症例に対しては手術療法、放射線治療、化学療法、さらには化学療法同時併用放射線治療などを用いた集学的治療を実践しています。近年、手術後（治療後）のQOL向上が重視されており、当科においては、術後リンパ浮腫や広汎子宮全摘後の膀胱麻痺などに対して様々な工夫を行い、取り組んでいます。さらに産婦人科一般診療、救急医療に対しても対応しています。

### 診療実績

平成24年の主な婦人科悪性腫瘍の治療実績は、新患患者数で子宮頸部上皮内癌71例、浸潤子宮頸癌（I期以上）で73例、子宮体癌で54例、卵巣癌23例で計221例でした。1974年からの総数は昨年末において、4,797例となっています。昨年は子宮頸部浸潤癌の増加が顕著でした。

現在、これらの悪性腫瘍症例の手術を中心に、一般



**医長**  
**永井 隆司** (ながい りゅうじ)  
産婦人科悪性腫瘍、産婦人科一般  
日本婦人科腫瘍学会婦人科腫瘍専門医  
日本産婦人科学会専門医  
母体保護法指定医



**医師**  
**高木 みか** (たかき みか)  
産婦人科一般、産婦人科悪性腫瘍  
日本産婦人科学会専門医



**医師**  
**山本 直** (やまもと なお)  
産婦人科一般、腹腔鏡下手術  
産婦人科悪性腫瘍  
日本産婦人科学会専門医

婦人科手術、緊急手術を行っています。平成23年の婦人科総手術件数は、414件でした。子宮頸部上皮内癌は原則として円錐切除による子宮温存療法を施行しています。また広汎性子宮全摘術症例の骨盤神経温存症例では、非施行例に対して術後の残尿測定期間が減少し、膀胱麻痺が軽減しています。

### 医療設備

円錐切除術（YAGレーザー、ハーモニックスカルペル）、リガシユアフォーカおよびインパクト。放射線治療設備に関しては2009年12月に全設備を一新し、外照射ではマルチリーフコリメーター内蔵の外照射装置リニアック、さらに子宮腔内照射では小線源治療装置ラルス（マイクロセレクトロン）が稼動しており、常勤の放射線治療専任医により精度の高い治療が可能です。子宮頸癌の放射線治療症例数も年々増加しています。

### ご案内

外来は月、火、木は全員で担当しています。水曜、金曜日は通常午前中から、根治手術を予定していますので、現在は高木医師が担当しています。手術は、予定手術を月曜日の午後、水、金曜日の終日行っており、週に8-10件を施行しています。その他、火曜日と木曜日の午後は放射線治療（RALS）、カンファレンス、子宮鏡などの検査を行っています。また急患にも対応しています。

今後も、さらに婦人科悪性腫瘍の正確な診断及び標準的治療の実践に力を注ぎ、質の高い医療の提供を目標にいたします。

# 熊病の歴史

## 精神科

熊本における精神医学は、明治37年（1904年）に「私立熊本医学専門学校」（現熊本大学医学部の前身）に神経精神医学教室が設立されたことに始まります。三角恂教授が「病理学」と「精神神経系科学」を兼任されました。大正14年5月からは、2代目・黒沢良臣教授が着任され、昭和18年～昭和35年までは、第3代教授・宮川九平太先生が精神神経医学教室を主宰されました。

熊病精神科の始まりは、宮川九平太先生の頃から始まります。昭和20年12月1日に熊本陸軍第一病院が厚生省に移管、「国立熊本病院」が誕生しました。熊本大学精神神経科教室から南虎一先生、清田一民先生、鹿子木敏範先生らが非常勤医として派遣され診療にあたられました。昭和31年になって、初めて精神科の常勤医として、佐々木綱憲先生が、院内の内科から精神科医長として勤務されることになりました。昭和37年には、国立熊本病院は、木造から鉄筋の建物に建て替わり始め、昭和43年4月に竣工しました。精神科病棟は、別館の第5病棟（別5病棟）に位置しました。昭和45年4月1日から精神科医の定員が1名から2名に増えることになり、村山英一先生が赴任されました。村山先生は、総合病院精神科医療の役割を果たすため、長期療養されていた多数の入院患者さんを断腸の思いで、転院をお願いされました。そして、現在の熊病における精神科医療の基礎を築かれました。熊大精神神経科教室との連携も常に大切され、多くの後輩精神科医を指導されました。村山先生は平成8年1月1日付けで退職されましたが（退職時は副院長）、25年間に、堀田直子先生、津嘉山毅

先生、江上昌三先生、比良亮一先生、岩渕龍太先生、荒木邦生先生、古賀幹浩先生らが常勤医として勤務されました。さらに約50余名のレジデント、研修医を指導され、その多くの精神科医が熊本県の精神科医療を支えています。

現在は、平成7年4月から着任している渡邊健次郎部長の下、自傷・自殺を含む精神科救急医療、精神障害者の身体合併症治療、緩和ケア、一般精神科医療などに取り組んでいます。平成21年9月、病院の新築に伴い、精神科医療は7階南病棟を主病棟として行っております。明るくなった環境の下、多職種のスタッフと共に総合病院における精神科医療に取り組んでいる所です。院内外の皆様の、ご理解とご支援を今後とも宜しくお願い申し上げます。熊病精神科のご紹介を終わります。

参考文献：熊本大学医学部神経精神医学講座

開講百周年記念誌

【精神科 山下 建昭】



# 谷原教授による特別講演が行われました

熊本大学大学院生命科学研究部眼科学教授で、現附属病院長の谷原秀信先生の特別講演が、9月4日に研修センターホールで行われました。

『眼科治療の新しい展開』と題されたご講演は、まず「熊本の歴史から俯瞰した眼科の昔」として、古代の白内障民間治療から、熊本医学校設立による近代眼科学の開始に至るまでを紹介されました。

次に「現代の眼科」として、近年の白内障手術、屈折矯正手術、小切開硝子体手術、ご専門である緑内障の日本における特徴・治療についての解説をされました。



ご講演頂いた谷原教授



会場の様子

最後に「これからの眼科」として、再生医療において、角膜移植はstem cellの培養によりlayer by layerのパーツ移植の時代になりつつあること、さらにiPS細胞を使った網膜色素上皮移植の加齢黄斑変性症への臨床応用は、閉鎖空間である眼球の中で直視下に操作・観察でき、しかも少ない細胞数で機能を発揮できる眼組織の優位性があり、他領域に先んじて研究が進んでいることを解説いただきました。

(眼科部長 近藤 晶子)

## 二の丸 がんサロン

# 秋の音楽コンサートを開催しました♪

9月のがんサロンは、音楽家のがんサロン参加者のお一人である患者様より「音楽を介してがんサロンを知ってもらいたい」との一声で「フルーツとピアノと歌のコンサート」が開催されました。

今回、ボランティアでお越しいただいたアンサンブルユニット Dear様と今回の企画者である患者様方より私たちにも馴染み深いポピュラーな曲をフルーツとピアノと歌での演奏をいただき今年の猛暑を忘れさせてくれるような涼しげな音色や美しい歌声で癒しの一時となりました。

また参加型コンサートとして船場橋にまつわる郷土の曲として「あんたがたどこさ」に合わせてボールゲームを楽しんでいただきました。

このようにがんサロンは患者様・ご家族と病院が一緒になって企画運用しており、「癒しの場」「語り合いの場」「がん治療における情報交換の場」として月1回(第1金曜日 13:00~)開催されています。

一人で悩まねず、がんサロンを通じて、できるだけ多くの患者様・ご家族にとって解決の糸口となるようながんサロンで有り続けたいと思います。ご参加をお待ちしております。(医療ソーシャルワーカー 西迫 はづき)



河野院長・看護部長と一緒にカーテンコール



# ナースのためのエンド・オブ・ライフ・ケアセミナーを開催しました

みなさんは、人生の最期をどこでどのように過ごしたいと思われませんか？

多死社会を間近に迎え、“いつでもだれでもどこでも質の高いエンド・オブ・ライフ・ケアを提供できる”ように学ぶことは急務とされています。そこで、「第2回 ナースのためのエンド・オブ・ライフ・ケアセミナー：ELNEC-J (End-of-Life Nursing Education Consortium Japan)」を本年も開催致しました。

ELNECとは、アメリカで開発されたエンド・オブ・ライフ・ケアを提供する看護師のための包括的・系統的な教育プログラムで、これは、世界各国で翻訳され日本でも現在3,626名が同じプログラムで学んでいます。

当院開催は8月24日(土)、25日(日)の終日2日間で、がん診療連携拠点病院や一般病院、緩和ケア病棟、クリニック、訪問看護ステーションなどさまざまな場所で勤務されている看護師45名が受講されました。講師には、日本の緩和ケアを牽引されている(株)緩和ケアパートナーズの梅田恵先生をお招きし、ELNEC-J指導者研修を受けたがん看護専門看護師、



グループワークの様子



研修スタッフ

緩和ケア・がん性疼痛看護認定看護師計10名で講義や演習を担当しました。具体的には、概論や症状マネジメント、倫理や文化、コミュニケーション、看取りと悲嘆など10のモジュールの講義、グループワーク、ロールプレイで構成されています。受講生は、自分の死生観を見つめたり自身の悲嘆と向きあう機会ともなり重たい空気もありましたが、真剣なまなざしで参加されました。ロールプレイでは人生の最期にある人びとの体験に身をおくことで感情が溢れ出る場面もありました。しかし、その充実した2日間があったからこそ、研修の最後には「人生の最期にある人が幸せに暮らせるためにできることを学びました」「自施設に学んだことを持ちかえって広めたい」と力強い決意を発表し合い、会場はとても温かい雰囲気になりました。

受講生のみなさま本当にお疲れさまでした。今後のご活躍をお祈り致し、エンド・オブ・ライフ期にある人々が自分らしくお過ごし頂けますことを重ねて祈念しております。

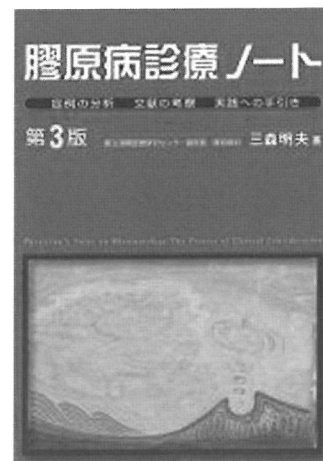
(がん看護専門看護師 安永 浩子)

## 私のお勧めの一冊

### 膠原病診療ノート

発熱や関節痛などの症状があり、膠原病ではと悩むときに役に立つ一冊です。いわゆる医学書の系統だった記載とことなり、症例とまとめがあり、読み物としても面白いと思います。不明熱を考えたり、膠原病の手かかりをつかむときに役に立ちます。私の愛読書です。ご活用下さい。

(地域医療連携室長 清川 哲志)



## 最近のトピックス

### 糖尿病領域の新しい医療機器



糖尿病・内分泌内科部長  
豊永 哲至

糖尿病領域においても検査・治療に関する医療器具の発展はめざましいものがあり、診療の質の改善に強力な手段となっています。当科に導入されているこれらの最新の医療機器についてご紹介したいと思います。

血糖測定に関する機器は糖尿病診療において無くてはならないものです。ベッドサイドで血糖自己測定器を用いると簡単に血糖値を知ることができます。しかしながら、病院においては、酸素投与を受けている方、貧血のある方、血糖値が異常に低いあるいは高い方など、血糖自己測定器では血糖値が正確に測定出来ない方も多くいます。採血にて検査室で測定するのが最も正確ですが、結果が判明するまで時間はかかり、また頻回な採血は患者負担の点からもためられます。このような場合には、POCT器具を使用しています(図1)。この機器は全血にて10~1000mg/dLまでの血糖値が測定可能で、酸素投与や貧血があっても測定結果は影響されません。救急外来、ICU病棟、救命病棟などでの血糖測定に威力を発揮しています。

CGMは持続的かつ連続的(5分ごと)に皮下のブドウ糖濃度を測定する器械です。最長7日間の血糖測

定を行えます。iPro2(図2)は超小型の最新式CGM機器であり、この機器を装着したまま入浴することも出来ます。血糖値の変化を点ではなく、線として詳細に把握することができ、また血糖測定が出来ない夜間の低血糖や高血糖の把握に威力を発揮します。



図2. CGM

CSIIはプログラムに基づきインスリン注入を行う機器(図3)で、注射器を用いたインスリン投与では到達できない、細かなインスリン注入を行うことができます。1型糖尿病で血糖コントロールが難しい症例に威力を発揮します。

人工膵臓の最新の装置(STG-55)は平成25年3月に当院に導入されました(くまびょう7月号に当院救命救急科の原田医長が紹介されています)。人工膵臓使用症例も増えてきており、厳格な血糖管理が必要な患者で威力を発揮しています。

上記の医療器具を用いることで、厳格な血糖コントロール管理が次第と可能になってきています。



図1. POCT



図3. CSII



いま、国立病院機構  
熊本医療センターで  
何が研究されているか

シリーズ78回

経尿道的膀胱腫瘍切除術を受けた患者の  
術後痛の認識と看護師の術後痛に対する意識調査  
—フェイススケールを基に患者の痛みを分析して—



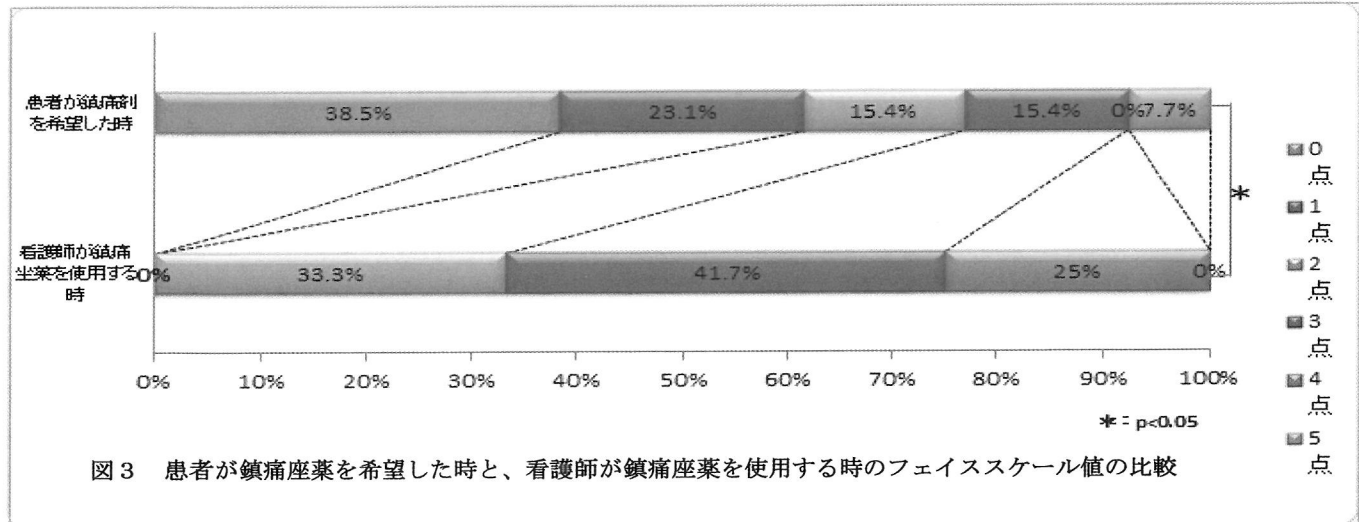
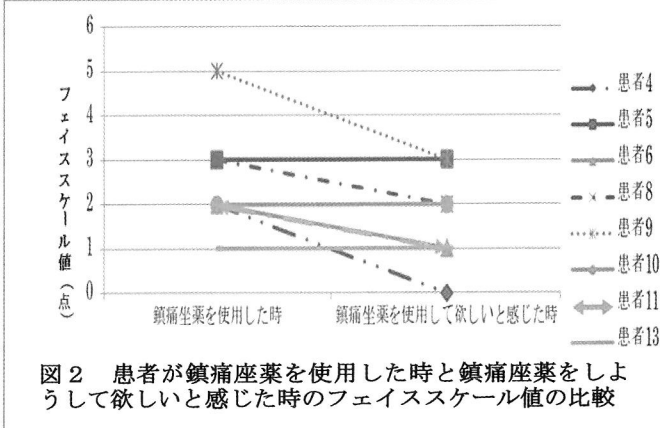
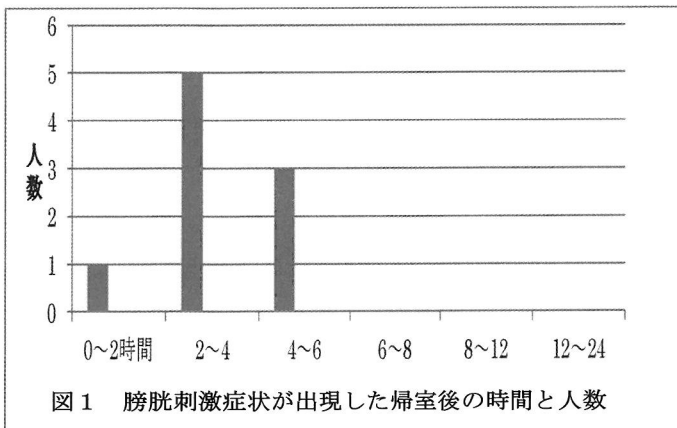
5西病棟看護師 村山由里子

当院の泌尿器科では、経尿道的手術が多く行われており、術後に尿道留置カテーテルを挿入している患者が多くいます。カテーテル挿入に伴い、膀胱刺激症状が出現する患者が多く、現在は鎮痛坐薬を使用して対応していますが、鎮痛坐薬を使用するタイミングは看護師によって異なっており、患者が看護師に訴える時には疼痛が強くなっている場合があります。そこで、平成23年9月から平成23年12月までの期間に入院し同意を得られた患者13名及び看護師24名の患者・看護師それぞれに術後痛に関する意識調査を行い、患者と看護師が考える鎮痛坐薬のタイミングにどの程度差があるのかを検証しました。

患者が実際に鎮痛坐薬を希望した時（平均1.9点）と鎮痛坐薬を使用してほしいと感じた時（平均1.4点）のフェイススケール値を比較すると、鎮痛坐薬を使用してほしいと感じた時のフェイススケール値の方が低いと結果が出ました。このことより、実際に痛みを感

じていても、患者は疼痛を我慢し、痛みが最大になってから鎮痛坐薬を希望する傾向にあると考えられます。また患者が鎮痛坐薬を使用してほしいと感じた時（平均1.4点）と、患者がどの程度の痛みを感じていると判断したときに看護師が鎮痛坐薬を使用するか（平均2.9点）という点数を比較すると、患者の方が低いとの結果が出ており、看護師が判断しているよりも痛みが軽度であっても患者にとっては苦痛であり、鎮痛坐薬を使用したいと感じていることが示唆されました。この結果をもとに、患者と看護師の疼痛出現時の鎮痛坐薬使用の認識の差を埋め、患者が術後安楽に過ごせるように継続して看護研究も行われ、現在は膀胱刺激症状に関するパンフレットを作成、使用して入院時や手術前に説明するといった取り組みを行っています。

今後も患者が術後安楽に過ごせるよう取り組んでいきたいと思っています。



## 研修医レポート

### 臨床研修医

まえだ さき  
前田 紗希



こんにちは。研修医1年目の前田紗希です。3月に産業医科大学を卒業し、4月より地元である熊本県で医師としてのスタートを切ることができ嬉しく思っております。

4、5月は血液内科で研修をさせていただきました。これまで学生実習で患者さんと接する機会は多くありましたが、実際に検査や治療方針を決定し自ら実践するということは初めてであり、戸惑いが多くありました。検査や薬の処方一つ一つでも一人で考え実践することに不安があり、指導医の先生をはじめ周りのスタッフの方々にも相談することが多くありましたが、お忙

しい中丁寧に教えていただきました。血液内科では若年～お年寄りまで様々な世代の患者さんがおり、治療への反応性もそれぞれ異なるため中には重症の患者さんも多くいました。私自身、治療の面では無力さを感じていましたが、患者さんにとって自分がどういう存在であるべきか考え、話を傾聴し自分に出来ることを少しずつ増やしていく毎日を送っていました。

次にローテートした外科では、手技だけでなく輸液や抗生剤、食事などの術前術後管理について勉強させていただきました。手術の際には器具の名前や使い方から手術手順まで教えていただき、また毎日のカンファレンスや回診で担当の患者だけでなく多くの症例を学ぶことが出来ました。

現在は呼吸器内科をローテートさせていただき、抗生剤や輸液管理、呼吸器管理はもちろんのこと、胸腔ドレーンやCVカテーテル留置などの手技、担当患者や救急外来対応も多く、忙しくも充実した研修生活を送らせていただいています。これからも様々な科でご迷惑をお掛けするかと思いますが、今後ともご指導、ご鞭撻の程よろしくお願い致します。

### 臨床研修医

ほんだ ちえこ  
本田 知恵子



こんにちは。研修医1年目の本田知恵子と申します。3月に長崎から熊本へやって来て、働き始めてはやくも5か月余りが過ぎました。国家試験は通ったものの、自分がいかに何もわかっていないかを実感し、学ぶことの必要性を感じる日々を過ごしております。

最初の研修は、神経内科でお世話になりました。当初はカルテの記載や各種オーダーの仕方等を覚えることに精一杯で、なかなか時間を取って勉強する余裕がなかったように思います。患者さんの診察をさせていただく中で、指導医の先生をはじめ、神経内科の先生方には自分で調べ考えることと、患者さんのところに頻繁に行って診察することの大切さを教えていただき

ました。

次にお世話になった呼吸器内科では、今まで胸部X線写真をきちんと見ることができていなかったというのを痛感しました。CTがいつでもとれるとは限らないから、胸部X線をきちんと評価できないといけない、ということをお教えていただきました。胸部X線だけでなく、今までオーダーしていた各種検査や抗生剤・ステロイドの使い方などについて勉強しなおすきっかけを与えていただきました。

8月からは外科でお世話になっております。手術に入って勉強させていただくだけでなく、手術の適応や術後の食事の始め方・術後化学療法など学ぶことが多くあります。

働き始めてまだ半年も経っておりませんが、各科の先生方をはじめ、院内で働くスタッフの皆様に支えられていると感じます。これからも様々な場面でご迷惑をおかけすることと思いますが、今後ともご指導よろしくお願いたします。

# 研修のご案内

## 第145回 三木会（無料）

（糖尿病、脂質異常症、高血圧を語る会）  
 [日本医師会生涯教育講座1.5単位認定]  
 [日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位<2群>0.5単位認定]

日時▶平成25年10月17日(木) 19:00~20:45  
 場所▶国立病院機構熊本医療センター研修室2

1. 「ハイパーリポドーシスへのインスリン投与が糖尿病性ケトアシドーシスへの一因となった糖尿病の1例」  
 国立病院機構熊本医療センター糖尿病内分泌内科  
 坂本和香奈、中島昌利、本郷貴大、橋本章子、高橋毅、豊永哲至、東輝一朗  
 なお、興味のある症例、疑問・質問のある症例がございましたら、お持ちいただきますようお願い致します。  
 【問合せ先】国立病院機構熊本医療センター内科部長 東 輝一朗 TEL 096-353-6501 (代表) 内線5705

## 第177回 月曜会（無料）

（内科症例検討会）  
 [日本医師会生涯教育講座1.5単位認定]

日時▶平成25年10月21日(月) 19:00~20:30  
 場所▶国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター

1. 胸部レントゲン読影  
 2. 持ち込み症例の検討  
 3. 症例検討「高Ca血症の2症例について」 国立病院機構熊本医療センター腎臓内科部長 富田 正郎  
 4. ミニレクチャー「最新の抗凝固薬と脳梗塞治療」 国立病院機構熊本医療センター神経内科医長 田北 智裕  
 日頃、疑問の症例、興味のある症例、X線、心電図、その他がございましたら、ご持参いただきますようお願い致します。  
 【問合せ先】国立病院機構熊本医療センター統括診療部長 清川 哲志 TEL: 096-353-6501 (代表) FAX: 096-325-2519

## 第112回 総合症例検討会（CPC）

[日本医師会生涯教育講座1.5単位認定]

日時▶平成25年10月23日(水) 19:00~20:30  
 場所▶国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター

テーマ：『肺癌症例の病状急変』 (70歳代 男性)  
 臨床担当) 国立病院機構熊本医療センター呼吸器内科 城臺 孝之  
 病理担当) 国立病院機構熊本医療センター臨床研究部病理研究室長 村山 寿彦  
 「2ヶ月前より喀痰が多くなり衰弱が進んだために、当院呼吸器科へ紹介入院となった。左胸水より腺癌が認められた。胸水癒着術をおこない一時退院。今回、化学療法目的で入院となった。入院7日目に病状の急変が起こった。」

\*臨床経過の詳細な検討と鑑別診断を行います。最後に病理よりマクロ、ミクロの所見と剖検診断が解説されます。通常のレクチャー（解説）の前に、馴染みの少ない疾患、病態は、その分野に関するミニレクチャーを予定しております。基本的知識を学んだ後で活発なディスカッションをお願い致します。どなたもお気軽にご参加下さい。  
 【問合せ先】国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター事務局 TEL 096-353-6501 (代表) 内線2630 096-353-3515 (直通)

## 第35回 症状・疾患別シリーズ（会員制）

[日本医師会生涯教育講座2.5単位認定]

日時▶平成25年10月26日(土) 15:00~17:30  
 場所▶国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター

座長：熊本市医師会熊本地域医療センター院長 廣田 昌彦 先生

演題：「胆道疾患のUp to date」

1. 胆道疾患の診断と治療  
 1) 内科的立場から 国立病院機構熊本医療センター消化器内科 石井将太郎  
 2) 外科的立場から 国立病院機構熊本医療センター外科医長 松本 克孝  
 3) 放射線科的立場から 国立病院機構熊本医療センター放射線科医長 富高 悦司  
 2. 胆道疾患の内視鏡的診断と治療の最近の話題

久留米大学医学部内科学講座消化器内科部門講師 岡部 義信 先生

この講座は有料で、年間10回を1シリーズ（年会費10,000円）として会費制で運営しています。但し、1回だけの参加を希望される場合は1回会費2,000円で参加いただけます。

【問合せ先】国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター事務局  
 TEL 096-353-6501 (代表) 内線2630 096-353-3515 (直通) FAX 096-352-5025 (直通)

## 第80回 特別講演（無料）

[日本医師会生涯教育講座1.5単位認定]

日時▶平成25年10月30日(水) 19:00~20:30  
 場所▶国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター

座長：国立病院機構熊本医療センター統括診療部長 清川 哲志

「自然免疫と獲得免疫を連結させるがん免疫賦活剤の開発」

理化学研究所 統合生命医科学研究センター 免疫細胞治療研究チーム チームリーダー 藤井 眞一郎 先生

【問合せ先】国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター TEL 096-353-6501 (代表) 096-353-3515 (直通)

# 2013年 研修日程表 10月

国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター

10月	研修センターホール	研修室
3日(木)	7:30~8:15 二の丸モーニングセミナー 「急性腹症(婦人科疾患)」 国立病院機構熊本医療センター産婦人科医長 西村 弘	18:30~20:00 熊本県臨床衛生検査技師会 一般検査研究班月例会(研2)
4日(金)		18:30~20:30 熊本地区核医学技術懇話会(研2)
5日(土)	9:30~16:00 第33回 ナースのための心電図セミナー 〈講演〉心電図の基礎 各種心疾患における心電図 不整脈 〈実習〉心電計の取り扱い方	国立病院機構熊本医療センター循環器内科医長 宮尾 雄治 国立病院機構熊本医療センター循環器内科部長 藤本 和輝 すえふじ医院 院長 末藤 久和 国立病院機構熊本医療センター循環器内科部長 藤本 和輝 他
10日(木)	7:30~8:15 二の丸モーニングセミナー 「泌尿器科の救急疾患」 国立病院機構熊本医療センター泌尿器科医長 瀬下 博志	
15日(火)	19:30~20:30 第30回 熊本摂食・嚥下リハビリテーションセミナー 「東洋医学と摂食嚥下障害」 リハビリテーションセンター熊本回生会病院 歯科医師 緒方 博	
16日(水)		13:00~17:00 糖尿病教室(研2)
17日(木)	7:30~8:15 二の丸モーニングセミナー 「急性腹症(内科疾患)」 国立病院機構熊本医療センター消化器内科部長 杉 和洋 14:00~15:00 第7回 市民公開講座 「あざの治療」 国立病院機構熊本医療センター形成外科医長 大島 秀男	19:00~20:45 第145回 三木会(研2) (糖尿病、脂質異常症、高血圧を語る会) [日本医師会生涯教育講座1.5単位認定] [日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位<2群>0.5単位認定]
18日(金)		15:30~16:45 肝臓病教室(研2)「肝硬変について」
19日(土)	8:30~17:00 第6回 ナースのための癌性疼痛緩和ケアセミナー(研修ホール) 1. 痛みのメカニズムと癌の痛み 2. 痛みのアセスメント 3. 疼痛緩和の実際(オピオイド療法) 4. オピオイドが効きにくい時の対応 5. 悪い知らせを伝えるコミュニケーション(SHARE) 6. 呼吸困難・消化器症状・精神症状への対応 〈特別講演〉「在宅医療の現況」	国立病院機構熊本医療センター麻酔科部長 瀧 賢一郎 国立病院機構熊本医療センター麻酔科医長 宮崎 直樹 鶴田病院緩和ケア病棟医長/麻酔科部長 上妻 精二 国立病院機構熊本医療センター麻酔科部長 瀧 賢一郎 国立病院機構熊本医療センター緩和ケア認定看護師 岩井 幸 国立病院機構熊本医療センターがん看護専門看護師 安永 浩子 国立病院機構熊本医療センター血液内科医長 榮 達智 国立病院機構熊本医療センターがん看護専門看護師 安永 浩子 医療法人ソレイユ ひまわり在宅クリニック院長 後藤 慶次
20日(日)	9:00~16:00 楽しく学ぶ基礎看護研修	
21日(月)	19:00~20:30 第177回 月曜会 [日本医師会生涯教育講座1.5単位認定]	
22日(火)	18:30~20:30 血液研究班月例会	19:00~21:00 小児科火曜会(研1)
23日(水)	19:00~20:30 第112回 総合症例検討会(CPC) [日本医師会生涯教育講座1.5単位認定] 「肺癌症例の病状急変」	
24日(木)	7:30~8:15 二の丸モーニングセミナー 「救急で問題となる肝疾患」 国立病院機構熊本医療センター消化器内科部長 杉 和洋 18:30~20:00 日本臨床細胞学会熊本県支部研修会 〈細胞診月例会・症例検討会〉	
26日(土)	15:00~17:30 第35回 症状・疾患別シリーズ 「胆道疾患のUp to Date」 [日本医師会生涯教育講座2.5単位認定] 座長 熊本市医師会熊本地域医療センター 院長 廣田 昌彦 1. 胆道疾患の診断と治療 1) 内科的立場から 国立病院機構熊本医療センター消化器内科 石井将太郎 2) 外科的立場から 国立病院機構熊本医療センター外科医長 松本 克孝 3) 放射線科的立場から 国立病院機構熊本医療センター放射線科医長 富高 悦司 2. 胆道疾患の内視鏡的診断と治療の最近の話題 久留米大学医学部内科学講座消化器内科部門講師 岡部 義信	
30日(水)	19:00~20:30 第80回 特別講演 [日本医師会生涯教育講座1.5単位認定] 座長 国立病院機構熊本医療センター統括診療部長 清川 哲志 「自然免疫と獲得免疫を連結させるがん免疫賦活剤の開発」 理化学研究所 統合生命医学研究センター 免疫細胞治療研究チーム チームリーダー 藤井眞一郎	
31日(木)	7:30~8:15 二の丸モーニングセミナー 「小児科の救急疾患」 国立病院機構熊本医療センター小児科部長 高木 一孝	

研1~3 2階研修室1~3

※二の丸モーニングセミナーにつきまして、詳細はホームページ(<http://www.nho-kumamoto.jp/index.html>)をご参照ください。

問い合わせ先 〒860-0008 熊本市中央区二の丸1番5号 国立病院機構熊本医療センター2階 地域医療研修センター TEL 096-353-6501(代) 内線2630 096-353-3515(直通)